図書館だより

平成２６年度　第４号
伊丹西高等学校　図書館
平成26年9月30日（火）

自分は黙って首肯いた。女は静かな調子を一段張り上げて、
「百年待っていて下さい」と思い切った声で云った。
「百年、私の墓の傍に坐って待っていて下さい。きっと逢いに来ますから」
（中略）
自分は苔の上に坐った。これから百年の間こうして待っているんだなと考えながら、腕組をして、丸い墓石を眺めていた。そのうちに、女の云った通り日が東から出た。大きな赤い日であった。それがまた女の云った通り、やがて西へ落ちた。赤いまんまでのっと落ちて行った。一つと自分は勘定した。
しばらくするとまた唐紅の天道がのそりと上のぼって来た。そうして黙って沈んでしまった。二つとまた勘定した。
自分はこう云う風に一つ二つと勘定して行くうちに、赤い日をいくつ見たか分らない。勘定しても、勘定しても、しつくせないほど赤い日が頭の上を通り越して行った。それでも百年がまだ来ない。しまいには、苔の生えた丸い石を眺めて、自分は女に欺されたのではなかろうかと思い出した。
すると石の下から斜に自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。見る間に長くなってちょうど自分の胸のあたりまで来て留まった。と思うと、すらりと揺ぐ茎の頂に、心持首を傾けていた細長い一輪の蕾が、ふっくらと弁を開いた。真白な百合が鼻の先で骨に徹えるほど匂った。そこへ遥の上から、ぽたりと露が落ちたので、花は自分の重みでふらふらと動いた。自分は首を前へ出して冷たい露の滴る、白い花弁に接吻した。自分が百合から顔を離す拍子に思わず、遠い空を見たら、暁の星がたった一つ瞬いていた。
「百年はもう来ていたんだな」とこの時始めて気がついた。

夏目漱石『夢十夜』より

「百年待っていて下さい」――女の言い遺した言葉にしたがって、大きな真珠貝で穴を掘り、天から落ちて来る星の破片を墓標に置いて、その傍で待ち続ける……。「いくら百歳以上の人口が五万八千人を超えるご時世だといっても、百年は待てない」などと無粋なことは言いっこなし。漱石が『夢十夜』を「朝日新聞」に連載していた頃に比べ、人の歩みは慌ただしくなる一方で、科学技術は「待つ」ことを目の敵にして発達し続けてきました。誰も彼もが、すぐに結果を出せ、とせっついてきます。人の言葉を信じて百年待つこころがなければ、百合の花になって帰って来た女に気付けないのではないでしょうか？

漱石の『こころ』が新聞連載小説として登場して今年でちょうど１００年。じっくりと明治の精神にふれてみませんか？

情報教育部長　M.S.

読書感想文コンクール校内表彰者決定

※　１年１組　Ｎ．Ａ．　「『震える牛』を読んで」
（相場英雄『震える牛』）

１年４組　Ｍ．Ｓ．　「命の大切さ」
（ロリー・ヘギ『みじかい命を抱きしめて』）

１年４組　Ｙ．Ｍ．　「『永遠の０』を読んで」
（百田尚樹『永遠の０』）

※　２年５組　Ｍ．Ｏ．　「『永遠の０』を読んで」
（百田尚樹『永遠の０』）

２年７組　Ｓ．Ｍ．　「大切な人」
（辻村深月『ツナグ』）

なお、※印の２編は青少年読書感想文コンクール（阪神地区）に応募します。

読書会開催のお知らせ

来たる１０月３１日（金）１５時３０分より、図書館に於いて読書会を開催します。今年の対象図書はＯ・ヘンリー『最後の一葉』　図書委員に限らず、誰でも参加できます。参加してみようという人は、図書館で本を受け取り事前に読んでおいてください。

～ YA スタッフ募集中！！ 一緒に運営しませんか？～

伊丹市立図書館“ことば蔵”の２階にある YA（ヤングアダルト）コーナーは現在、伊丹市内３校の図書委員及び有志が企画・運営をしています。

オススメ本の紹介をしたり、今月の詩を書いたり、コーナーに置く本を選んだりしています。写真部の写真も展示しています。

自分が選んだ本が市立図書館に並ぶってすごくないですか。

YA コーナーをつくる公共図書館が増えてきましたが、高校生が運営している YA コーナーは、伊丹だけ。

《裏面へ》

ＹＡとは、高校生による高校生のためのコーナーです。

YA コーナーの企画・運営に参加したい人、募集中です。
県立伊丹高校・市立伊丹高校の有志の人たちと一緒に、
毎月第２・４木曜日の放課後活動しませんか。
興味のある人は、図書館の山川まで。
図書委員以外の人もＯＫです。

YA 会議中

YA 新聞第１号を来年１月に発行予定です。
YA 新聞の名前、マスコットキャラを募集中です。
詩・イラスト４コマ漫画も募集しています。
作品が出来たら、図書館まで持って来てください。

情報教育部　Ｙ.Ｙ.

「ぼくらの七日間戦争」
出版者 ポプラ社
著者 宗田理

大人 vs 子ども

あることがきっかけとなり子ども達は廃工場にたてこもり、大人達にデモを起こす。なぜ子ども達はデモを起こしたのか、そして大人と子ども どちらが勝者となるのか。

1-2 K.H.

県庁おもてなし課
出版社→角川書店
著者→有川浩

著者、有川浩 本人の出身の高知県を舞台とした小説。題材となるのは実際に高知県庁に存在する「おもてなし課」である。高知県の観光を盛んにするため、おもてなし課は日々努力をしている。地元愛あふれる心温まるストーリー。

1年2組 Y.M.

下町不思議町物語

作：香月日輪

［新潮文庫］

――『俺は修繕屋（リペアラー）。
鍋のふたから、人間関係まで
…何でも直しまっせ』――

体は小さいけれど、負けん気強い
小学生の"直え"。
謎多き修繕屋の"高塔"。
二人が織り成す
のんびり、まったり、キラキラ"な"の毎日！
ちょっと不思議な物語に
きっと惹かれる筈です。
大切なものに気付く物語。
是非読んでみて下さい。

1-3(20) M.T.

1-3 H.Y.

集英社文庫 しのびよる月

逢坂剛

主人公と相棒が、
元いじめられっ子とガキ大将で、主人公が復讐
しようとするので、少し人を
選びますが、基本はコメディ
調で、また、相棒の
格好良さにしびれました。

1年4組 Y.S.

妖怪アパートの幽雅な日常

香月日輪

講談社文庫

事故により両親を
亡くしている主人公
高校生になった彼は
ひょんなことから
妖怪アパートに住むこと
になる。次々と目の前で
起こる非日常。砕かれる
自分の中の「常識」…
周りとは違う毎日を過ごし
ながら成長していく
少年の物語です

1-4 S.T.